

渕野辺総合病院

地域連携NEWS

メディカルサポートセンター
地域医療連携課

新入職医師のご紹介

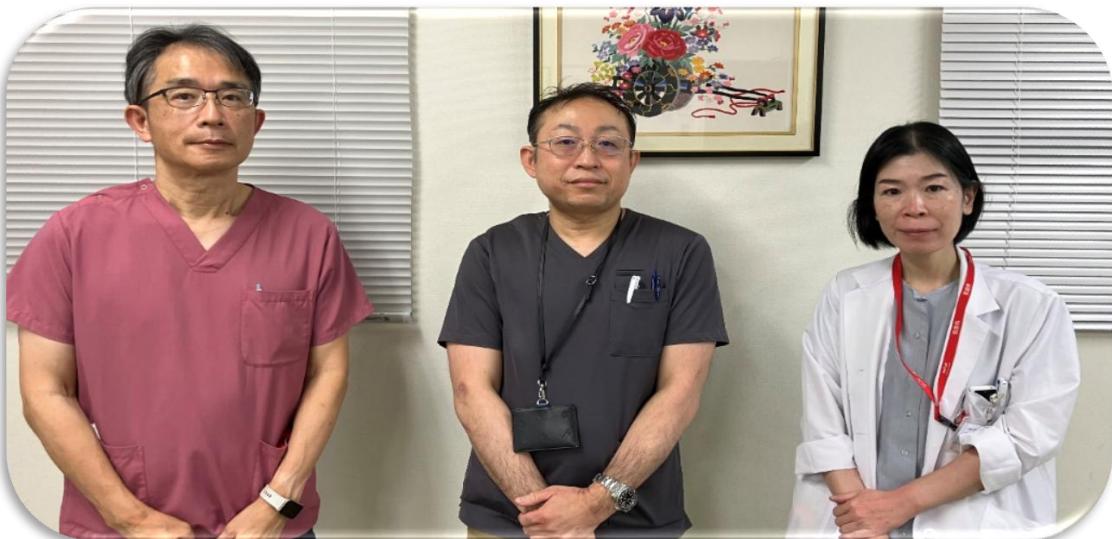
内視鏡室副室長
消化器内科 三枝 陽一

2025年10月より渕野辺総合病院内科に入職しました三枝 陽一（さえぐさ よういち）と申します。

私は北里大学医学部卒業後、北里大学病院、大和市立病院、JCHO相模野病院と勤務し、総合内科専門医、消化器内科専門医、内視鏡専門医として勤務し、積極的に地域医療を行なってきました。入院適応、救急、総合病院での診療が必要な患者さんがおられる際はお気軽に紹介していただければ幸いです。



その中で特に力を入れて診療している専門分野で炎症性腸疾患（IBD）があり、学会よりIBD連携専門医の認定を頂きました。2023年時点の全国の有病者数は、潰瘍性大腸炎で約31.7万人、クロhn病で約9.6万人と推計されます。2015年の調査時に対して、両疾患がともに約1.4倍に増加しています（Journal of Gastroenterology 2025）。また発病が10歳から50歳が発病のピークであり、働き世代のIBD患者さんのQOLを大きく下げてしまいます。しかし、生物学的製剤に代表される最新治療は大きく治療効果を認め、IBD患者さんの人生を良い方向に変えてくれます。当院でも、積極的に新薬を導入した先端治療を行なっていきたいと思っております。なかなか良くならない腹痛、下痢、血便がある際はご紹介いただければ幸いです。



<小池副病院長>

<三枝医師>

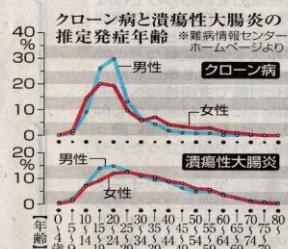
<瀬戸医師>

※裏面に三枝医師が東京新聞の取材を受けた記事があります。

続く下痢や腹痛は専門医へ

消化管慢性の炎症が起き、悪化すると潰瘍ができる腸が破れたり、ふさがつらする指定難病の「炎症性腸疾患」(IBD)。腹部が腸に限られる潰瘍性大腸炎」と、口から腸まで全消化管で起きる「クロhn病」とがあり、難病の中でも患者数は突出して多い。専門医は「の病気でも「早期発見」の重要性を訴えている。

指定難病の炎症性腸疾患



すこやか
ゼミ

三枝陽一・JCHO相模
野病院消化器内科部長

薬で炎症緩和が容易、早期発見を

▽日本でも患者急増
IBDは原菌などから体を守る免疫細胞が自分の体を攻撃してしまった自己免疫疾患で、原因は未解明。完治させることはまだなく、「症状が消えるまで持ち込み、それを維持すること」が治療の目的となる。

歐米に多く、以前は「歐米型の生活が原因」とも言われたが、近年は日本でも患者が急増し、潰瘍性大腸炎で七二万人、クロhn病で七万八千人、わざわざ、主な症状は下痢、便塞感(発熱なし)で、関節炎や肝障害、膀胱炎などの合併症の心配もある。年齢別に見た発症のじーくは二十歳代。すぐ命にかかる病気ではないが、生活質は落ちるし、進学や就職、食事などで制約を余儀なくされることもある。

▽遅れがちな確定診断
炎症が繰り返すとがんになれる恐れもあるし、以前は発症のたびに腹部を切除し、短腸

その原因について、三枝部長は「低い認知度

炎症群になってしまい、症例も多かったという。しかし「今は良い薬がで

きて、寛解(持ち込み、維持)することは容易になった」とJCHO相模病院(相模原市)の三枝陽一・消化器内科部長。潰瘍性大腸炎では、寛解のうちは食事制限も不要で普通と同じ生活が送れる。そのため重要なのが「早期発見、早期治療」。十代での発症も珍しくないが、IBDと診断されるまで時間がかかる。漫然と整腸剤を飲んだり、病院を転々とした際にする

▽三枝部長の経験談
三枝部長は「下痢や便塞感などが二週間以上続く場合は、IBDも疑って大腸内視鏡がある病院にかかるべき。ついで検査というイメージもあるようだが、最近は鎮静剤を使って楽に受けられる」と強調する。

▽三枝部長の経験談
三枝部長は「炎症性腸疾患者向けのサイトIBDフルス

(https://ibd-life.jp)で、患者や家族からのメール

相談を受けている。

▽日本でも患者急増
IBDは原菌などから体を守る免疫細胞が自分の体を攻撃してしまった自己免疫疾患で、原因は未解明。完治させることはまだなく、「症状が消えるまで持ち込み、それを維持すること」が治療の目的となる。

そのため重要なのが「早期発見、早期治療」。十代での発症も珍しくないが、IBDと診断されるまで時間がかかる。漫然と整腸剤を飲んだり、病院を転々とした際にする

▽三枝部長の経験談
三枝部長は「下痢や便塞感などが二週間以上続く場合は、IBDも疑って大腸内

視鏡がある病院にかかるべき。ついで検査というイメージもあるようだが、最近は鎮静剤を使って楽に受けられる」と強調する。

▽三枝部長の経験談
三枝部長は「炎症性腸疾患

患者向けのサイトIBDフルス

(https://ibd-life.jp)

で、患者や家族からのメール

相談を受けている。

▽三枝部長の経験談
三枝部長は「炎症性腸疾患

患者向けのサイトIBDフルス